

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ



## コロナ禍でも最大限の経験を

いざロンドンへ赴任という時期に新型コロナウイルス感染症拡大のため渡航延期になり、半年間の待機を経て渡英しました。帰国までの期間が限られている中、いつロックダウンになるかわからないから今のうちにやっておこう、と動き続けた1年半でした。

### 趣味を通して多様な体験を

英国といえば、乗馬の本場。長く乗馬を習っていた私にとっては、願ってもない派遣先でした。毎週地元の子どもたちが集まるスクールに通い、英国の馬文化やアニマルウェルフェアの精神を肌で感じる事ができたのは、貴重な体験でした。

毎週のスクールのほかにも、ロンドンで開催される国際馬術大会にもボランティアとして参加しました。適宜SNSでコミュニケーションを取りながら、柔軟に休憩を取ったり配置を変えていく様子は、私が今まで経験した、スケジュールを分刻みで決めておく日本のスポーツイベントとは大きく異なり、衝撃を受けました。

また、1週間馬で国立公園を旅するツアーに参加した際には、朝から晩まで英国生まれ英国育ちのおばさまたちと過ごし、食事のマナーを学んだり、これまでの人生のさまざまなお話を聞いたり、英国から見たアメリカについての話を聞いたり、英国文化を芯から感じる日々を過ごすことができました。

趣味を起点に幅広い体験をする、というのは、今後派遣される方にもぜひ試してみたいことの一つです。

### 大学での学び

当初は大学の短期コースに通って学びながら人間関係を広げたいと考えていたのですが、コロナ禍で通学が制限されたので、ロンドン大学大学院のPostgraduate

岡山市市民協働局市民協働部国際課 金子 万利奈  
Certificate コースでマーケティングを学ぶことにしました。

全てオンライン受講で、平日の夜は大量の論文や資料を読んだりレポートを書いたりするのに四苦八苦していましたが、語学力を鍛えると共に、英国でのサステナビリティに関する捉え方など、新しい視点を得ることができました。



激動の2年間に共に乗り越えた仲間と

### 帰国後も生きるクレアレポート

クレアの卒業レポート、クレアレポートのテーマとして選んだのは、英国の自治体でのナッジの活用について。行動変容を促す手法であるナッジについて渡英前から少しずつ学び始めていたのですが、実際に英国の自治体関係者などにインタビューを行うと、自治体職員ならではの葛藤や割り切りがあったりと、思わぬ発見がありました。帰国後はクレアレポートや担当した機関誌のナッジ特集記事などが自己紹介の時の話題となり、他の自治体職員などとのつながりを深めることができたほか、岡山市職員にも還元したいと、自主研究会を開くなどしています。

突然のクレア派遣の打診から、コロナ禍、帰国時のウクライナ危機と、さまざまな不測の事態を切り抜けた経験のおかげで、少々のことでは動じない心を持てるようになったのが、この3年間での一番の成長かもしれません。貴重な経験をさせてくださった岡山市やクレアの方々に、心から感謝しています。

#### プロフィール・ほか

- クレア在籍時の所属：  
2019年4月～2020年3月 多文化共生部多文化共生課  
2020年4月～2022年3月 ロンドン事務所